

祝辞

本日、広島県警察学校初任科第259期短期課程の卒業式が挙行されるに当たり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

初任科第259期短期課程を卒業される84名の皆さん、誠におめでとうございます。

皆さんは、本年4月1日に巡査を拝命すると同時に本学校に入校され、以来、警察官として必要な知識や技能の習得に励まれ、また、厳しい訓練に耐えて警察学校の全課程を無事終了され、本日、ここにめでたく卒業の時を迎えられました。その輝かしい門出を心からお祝い申し上げます。

また、今日まで皆さんの成長を見守ってこられた御家族をはじめ、熱心に皆さんの指導・教育に当たってこられた学校長、各教官及び関係各位に対しましても、心からお慶びを申し上げます。

せっかくの機会ですので、ともに刑事司法を担うという観点から2点ほどお話をさせていただきたいと思います。

一つ目は、県内の犯罪情勢についてです。一昨年以降、県内の刑法犯認知件数は増加に転じ、犯罪情勢は厳しい状況にあります。具体的には、特殊詐欺事案は跡を絶ちませんし、殺人等凶悪事件も散発するほか、交通死亡事故も急増傾向にあります。このような状況下において県

民の安心・安全を確保していくためには、私たち刑事司法に関わる者が、犯罪を早期に認知し、迅速かつ的確な捜査を行って犯人を特定・検挙し、事案の真相を解明して犯人に対してその犯した行為に見合った刑罰を科すことが何より重要です。刑事司法の要である警察及び検察が、お互いに協力し、知恵を出し合い、手間を惜しまず、一つ一つの事件を着実に解決していく必要があります。

二つ目は、皆さんに課せられた責任は重く、期待も大きいということです。皆さんはこれから第一線に配属されることになると思います。犯人の検挙、そして事件の適切な解決には、初動捜査の善し悪しが大きく影響します。したがって、皆さんが今後すぐ直面する事件発生後の初期対応がその後の解決の可否にもつながることになります。それだけその任務は重い一方で、初動における機敏かつ機転の効いた捜査活動への期待も大きいのです。今後、末永く油断・隙のない職務遂行を続けてください。

このように治安を維持する責務を担う任務は非常に厳しいものであります。精神的に、そして肉体的に辛いこともあろうかと思いますが、ここでの学びや、厳しい訓練に耐えたことを支えとして奮闘していただきたいと思います。

今後、若く、柔軟な思考を持ち、力強く前に進む皆さんと一緒に仕事ができることを心から楽しみにしています。

結びに、卒業生の皆さんの今後の御健勝と御活躍、そして広島県警察の益々の御発展を心から祈念し、私の祝辞といたします。

令和6年9月27日

広島地方検察庁検事正 勝 山 浩 嗣